



只見町長
菅家 三雄

未来につなぐ 町づくりを目指して

明けましておめでとうございます。平成三十一年の初春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆さまにおかれましては、つつがなく輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃町政にお寄せいただいておりますご支援ご協力に対し心から感謝申し上げます。

さて、平成三十一年を迎え、今年には町制施行六十周年の節目を迎える年となります。人口減少対策こそが私の最大の使命との認識のもと、本年も第七次振興計画の「ブナと生きるまち、雪と暮らすまち、心豊かに生きるまち」を理念とし、五つの施策を柱に取り組みます。

第一は、「自然と共生するまちづくり」であります。只見ユネスコエコパークは、本地域の豪雪に特徴づけられる豊かで貴重な自然環境や天然資源、及びそれを抛り所とした地域住民の伝統的な生活・文化が高く評価され、平成二十六年六月に登録されたものであります。「自然首都・只見」宣言から十年を経た昨年十月には、「全国ブナ林フォーラム」を開催し、只見町を全国に発信する貴重な機会となりました。引き続きブナ林フォーラムの成果を活かし、ユネスコエコパークの理念の普及と共に更なるブランド向上にも結び付けてまいります。

第二は、「文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり」であります。少子化が進む中、将来の只見町を担う児童、生徒の教育は重要課題であります。今後も、「只見学」を中核とした、地域を持続させていく教育、保育所から高校まで連携した学力向上対策、教育環境の充実に努めてまいります。更に、民具収蔵庫の整備を進め、地域文化の振興及び継承に努めてまいります。

第三は、「住民が主役のまちづくり」であります。町づくりには、住民各位の積極的な参加が必要不可欠であります。人口減少などにより地域の活力が低下する中、それぞれの地域特色を活かし、町全体の活性化に結び付けることが重要だと考えます。地域づくりを担う振興センター間の連携を二層強化し、地域コミュニティづくりの支援に取り組んでまいります。また、町内及び周辺地域への交通体系を見直し、生活交通手段の充実に努めてまいります。

第四は、「住みやすいまちづくり」の推進であります。高齢者の皆さまが、住み慣れた地域で安心、安全な環境で過ごされ、いつまでも健康で町づくりに参加をいただくことが重要と考えます。そのため、引き続き保健・福祉・医療の連携を図り、健康で生きがいのある高齢者対策を推進してまいります。更に、子育てを地域

全体で支援する環境を整え、妊娠・出産・子育てまで切れ目なくサポートしてまいります。

第五は、「働きがいのあるまちづくり」であります。近い将来、JR只見線の再開通や国道二八九号八十里越の開通など、本町を取り巻く交通インフラ環境が大きな変化を迎え、交流人口拡大や産業振興など多岐にわたる効果が期待されます。それらの環境の変化を最大限生かしていくため、地域資源を活かした観光交流の拠点と地場産品を活かした地域振興の拠点となる道の駅の整備を進めてまいります。また、稲作、夏秋トマト、花卉栽培などの振興のほか、Uイーターンの促進や町内企業に対する支援などにより、農林商工業の振興を図り、雇用の拡大及び町内経済の活性化に努めてまいります。

更に、人口減少対策を目的として、昨年四月に立ち上げたプロジェクトチームの議論を踏まえ、「くらしの向上」、「交流人口の拡大」、「地域の活力・生産性向上」の三つの柱を中心に、人口減少に歯止めをかけ、この美しい只見町を未来の世代につなぐため、全力で取り組んでまいります。

結びに本年が皆さまにとりまして、素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます、年頭のご挨拶いたします。

新年のごあいさつ

新たな視点で

町民に寄り添う議会



只見町議会議長
齋藤 邦夫

明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆さまには健やかに新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

さて、昨年を振り返ると国内外においては、平和な日本にとつて関心の高い初の米・朝首脳会談が実現し、更に、韓国と北朝鮮首脳による核の無い朝鮮半島の実現と平和共存が確認されました。一方、世界経済力第一・二位の米・中の貿易不均衡問題と、報復関税、年末の株価下落などトランプ大統領の言動が関係諸国に不安と混乱を与え、世界が翻弄された一年でもありました。また、地球の温暖化、異常気象はインドネシアの地震や津波の発生、国内では西日本の豪雨災害をもたらしました。

国政は自民党総裁選挙で安倍晋三氏が三選を果たし、引き続き国政を担うこととなりました。

国は、今日の少子高齢社会の中で、成人年齢を二十歳から十八歳に引き下げる民法改正と国民投票の年齢引き下げなど若者に積極的な社会参加を促す法改正が行われました。

また、県知事選挙は現職内堀雅雄知事が避難地域の復興・再生、ふくしまプライドの確立などを訴え、実績が評価され再選を果たさ

れました。

さて、本町は役場庁舎の暫定移転、明和振興センターの耐震補強工事、只見町青少年旅行村の改修整備がほぼ完了しました。福祉政策や教育振興は、更にきめ細かな行政サービスが要請されています。一方、JR只見線の復旧は、念願の鉄道軌道法も改正され、六月には工事起工式が行われました。国道二八九号八十里越は、県境から叶津地内の整備が進められています。また、「全国ブナ林サミット」は「自然首都・只見」宣言十周年を記念して開催され、只見ユネスコエコパークの貴重な自然環境を人類共通の財産として、次世代に引き継ぐため活発な意見交換が行われました。

町の基幹産業である農業は、七月の干ばつの影響により米作は若干減収し、トマト、花卉などは高値販売となりました。町観光は宿泊業者の高齢化などにより旅館・民宿が激減し、観光客の受け入れ対策が喫緊の課題となっております。商工部門では、町誘致企業や新規企業など技術革新による努力が評価される明るいニュースがありました。

さて、今年は町制施行六十周年の節目の年を迎え、私たちは歴史と先人の努力や功績に学びながら

町政に取り組んでまいりたいと思います。

本町は人口減少対策が最大の課題であり、一段と過疎化が進む地域社会を再生するため具体的な行動計画をたて、新しい視点で町民に寄り添う町づくりが求められています。また一方では、只見線の全線復旧、五年後の国道二八九号の開通により、日本海経済圏と太平洋・首都圏との結びつきが強まり、年間五十万台に及ぶ交通量の増加が見込まれます。このため、観光交流人口の増加など地域経済に与えるインパクトは計り知れず、私たちはこのチャンスを見逃さず、急ぎ後悔のない対策を講じなければなりません。

新年にあたり、只見町議会は二元代表制の下、通年議会制度をフルに活かし、山積する町政課題にスピード感を持って取り組んでまいります。また、議会と町当局は相互の役割を尊重するとともに、切磋琢磨しながら町民生活の向上と只見町発展のため全力を尽くしますので、皆さまの尚一層のご指導・ご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして実りある飛躍の年となりますことを心から祈念して年頭のご挨拶といたします。